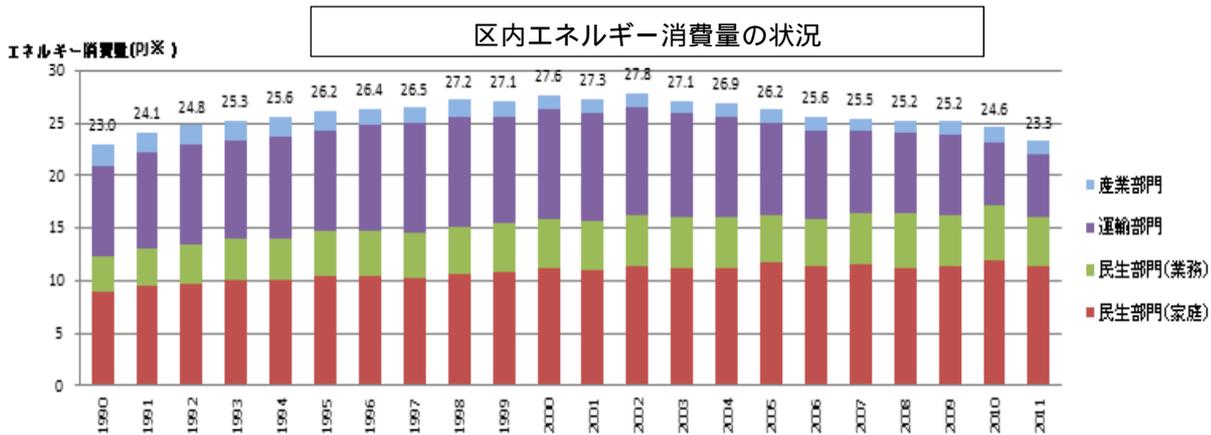


区内のエネルギー消費

～住宅都市にふさわしい自立分散型エネルギー社会へ～

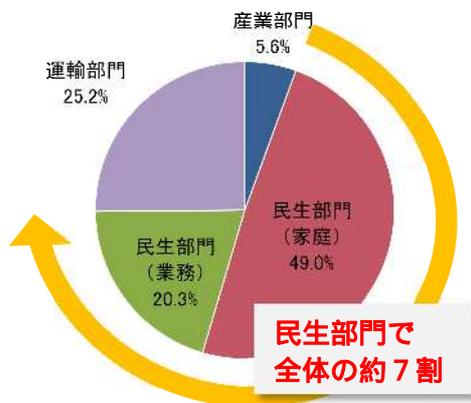
- 区内のエネルギー消費量は全体としては漸減傾向にあります。しかし、部門別に見ると、民生部門(家庭部門・業務部門)が約7割を占めており、その割合は増加しています。
- 再生可能エネルギーの設備容量の合計は約18,000kW(すべてが太陽光発電)です。1年間で得られる発電量は約2,000万kWhです。これは区内の年間電力消費量(約25億kWh)の1%にも満たない程度です。
- 日常生活において、電気やガスのムダづかいに気をつけるなどの身近な対策は既に多くの区民が実践しています。

住宅都市としての特性を活かしながら、災害時などのエネルギーセキュリティの確保と自立分散型エネルギー社会の実現という視点にたって、エネルギー政策を展開することが求められます。また、再生可能エネルギー機器の設置や省電力機器の優先的選択、マイカー利用の抑制など、環境配慮の取組について啓発や誘導策が必要です。



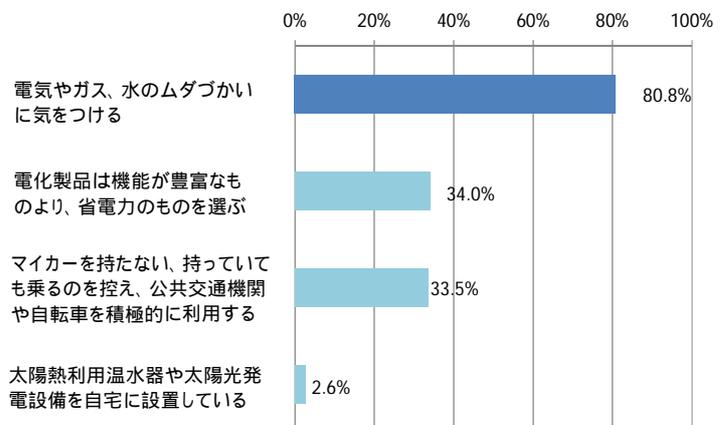
PJ(ペタジュール)：J(ジュール)はエネルギーの大きさを表す単位であり、P(ペタ)は 10^{15} (千兆倍)の意味
 [出典](公財)特別区協議会「特別区の温室効果ガス排出量(1990年度～2011年度)」をもとに作成

区内エネルギー消費量の部門別割合(2011年度)



[出典](公財)特別区協議会「特別区の温室効果ガス排出量(1990年度～2011年度)」をもとに作成

日常生活における環境配慮行動(エネルギー関連)



[出典]練馬区「平成25年度区民意識意向調査」